

特集

2009年9月16日、民主党政権がスタートした。崩壊寸前の医療を再建する道筋として、「崖っぷち日本の医療、必ず救う!」と銘打った民主党マニフェストの医療政策集では、医療の抜本改革を約束している。

もうすぐ新政権発足から100日が経つ。新型インフルエンザ対策、中央社会保険医療協議会委員の改選、後期高齢者医療制度廃止方針の表明——、民主党政権が矢継ぎ早に打ち出す方針からは、変化の兆しが垣間見られる。

これからの看護は変わっていくのか? 議員、有識者に話を聞き、今後の展望をさぐる。

政権交代! 看護は 変わる?



医療再建のためには、診療報酬の底上げしかない



最も現実的な選択肢として、自民党からの出馬、議席を獲得するという道を選んだ



議員を国会に送りこむことよりもロビー活動のほうにシフトしていくべき



「増やす」政策に賛成し続けるということは、最終的には患者自身の負担増につながる



私の背中には全国無数の現場があるわけですから、看護職の代弁者として国会で働く所存です。